

中心的で、戦闘的で、プロレタリア的でないスローガン

マルトフは効果をねらった文句でごまかしたその論文を、「政治的危機の当初に、はっきりした革命的＝国際主義的立場を占めるよう」に「ロシア社会民主党」に訴えた、もつとも効果をねらった呼びかけでむすんでいる。もし読者が、この効果をねらった看板の下にかくれているのは朽ち木ではないかを点検したいなら、つぎの問題を自分に出して、みるがいい、——政治上で一つの立場を占めるということは、そもそもなにを意味するか？と。(一) 組織(たとえ、それが「五人組」の書記であれ)の名において、戦術と当面の情勢にまとまった評価をあたえ、一連の決議をつくること。(二) 当面の闘争スローガンをあたえること。(三) 以上の二つを、プロレタリア大衆およびその自覚した前衛の**行動と結びつける**こと。「五人組」の思想上の指導者であるマルトフとアクセリロードは、第一のものをも、第二のものをも、第三のものをもあたえていないばかりでなく、すべてこの三つの分野で、事実上、**社会排外主義者を支持し、擁護している**！戦争の一六ヵ月のあいだに、在外書記の五人組は、「はっきりした」立場をも、一般になんの綱領的＝戦術的な立場をも、占めなかった。マルトフは、ときには左へ、ときには右へ動揺し、アクセリロードは、右のほうにだけ傾いている(とくに、彼のドイツ文の小冊子を見よ)。はっきりしたもの、まとまったもの、組織だったものはなにもなく、なんの立場もないのである！マルトフは自分でこう書いている、「ロシアのプロレタリアートにとっては、当面の中心的な戦闘的スローガンとなるのは、ツァーリズムをも、戦争をも一掃するための全人民的憲法制定議会でなければならない」と。これは、なんの役にもたたない、中心的でない、戦闘的でないスローガンである。なぜなら、このなかには、この二重の「一掃」という概念の主要な、社会的＝階級的な、政治的に明確な内容がないからである。これは、卑俗なブルジョア民主主義的な空文句であって、中心的で、戦闘的で、プロレタリア的なスローガンではない。

第21巻 P450「国際主義的言辭による社会排外主義的政策の擁護
『ソツィアルデモクラート』第四九号、1915年12月21日
新聞『ソツィアルデモクラート』のテキストによって印刷

ポイント

政治上で一つの立場を占めるために必要なことは、(一) 組織の名において、「はっきりした」立場をもって、戦術と当面の情勢にまとまった評価をあたえ、一連の決議をつくること、(二) 当面の闘争スローガンをあたえること、(三) 以上の二つを、プロレタリア大衆およびその自覚した前衛の**行動と結びつける**こと、である。

社会的＝階級的な、政治的に明確な内容がないスローガンは卑俗なブルジョア民主主義的な空文句であり、人民大衆の階級意識を眠らせるものである。